

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年6月16日(2005.6.16)

【公表番号】特表2001-503460(P2001-503460A)

【公表日】平成13年3月13日(2001.3.13)

【出願番号】特願平10-520820

【国際特許分類第7版】

C 1 1 D 3/37

C 1 1 D 1/62

C 1 1 D 3/39

C 1 1 D 3/395

【F I】

C 1 1 D 3/37

C 1 1 D 1/62

C 1 1 D 3/39

C 1 1 D 3/395

【手続補正書】

【提出日】平成16年10月22日(2004.10.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】



手 続 補 正 書

平成 16 年 10 月 22 日

特 許 庁 長 官 殿

1 事件の表示

平成 10 年 特許願第 520820 号



2 発明の名称

液状水性漂白組成物および前処理法

3 補正をする者

ザ プロクター アンド ギャンブル
カンパニー

4 代 理 人

東京都千代田区丸の内 3 丁目 2 番 3 号
協和特許法律事務所内
[電話 東京 (3211)2321 大代表]

6428 弁理士 佐 藤 一 雄



5 補正命令の日付

発送日 平成 年 月 日

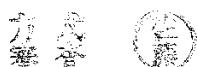
6 補正により する請求項の数

7 補正対象書類名 請求の範囲

8 補正対象項目名 請求の範囲

9 補正の内容

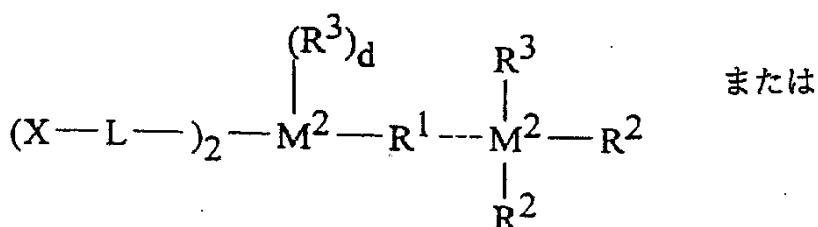
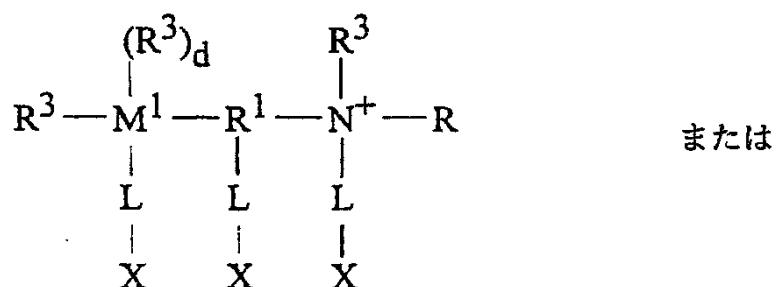
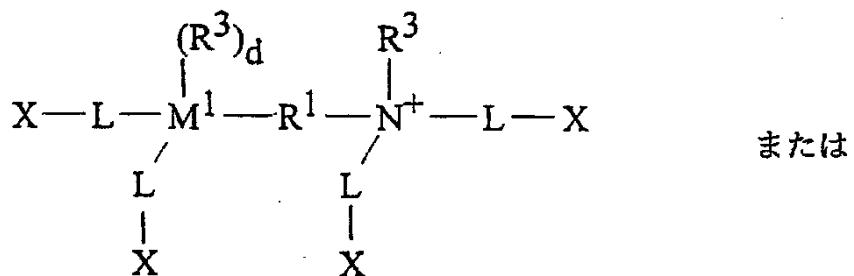
請求の範囲を別紙の通りに補正する。



請求の範囲

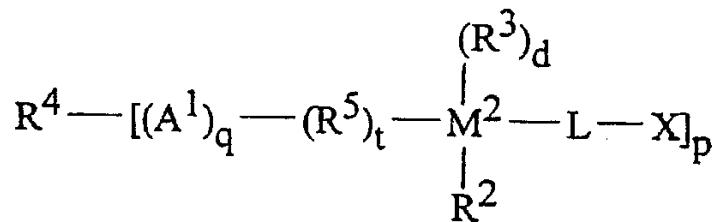
1. 布帛の前処理に適し、6以下のpHを有し、過酸素漂白剤および汚れ懸濁剤を含んでなる液体水性組成物であつて、前記汚れ懸濁剤が、

1) 下記式を有するエトキシル化カチオン性ジアミン：



式中、 M^1 は N^+ または N 基であり、各 M^2 は N^+ または N 基であり、そして少なくとも1つの M^2 は N^+ 基である；

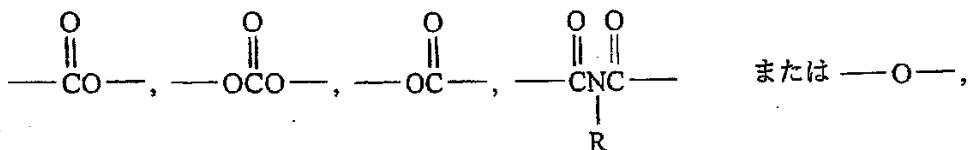
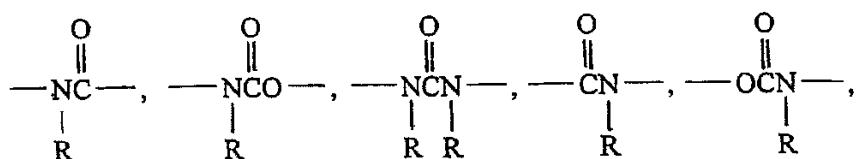
2) 下記式を有するエトキシル化カチオン性ポリアミン：



3) ポリマー主鎖、少なくとも2つのM基および少なくとも1つのL-X基からなるエトキシリ化カチオン性ポリマー、ここでMは主鎖に結合しているか、あるいは主鎖と一体的であるカチオン性基であり、XはH、C₁-C₄アルキルまたはヒドロキシアルキルエステルまたはエーテル基、およびそれらの組合せから成る群より選択される非イオン性基であり；そしてLはMおよびX基を接続するか、あるいはXをポリマー主鎖に接続する親水性鎖である；

4) それらの混合物；

〔式中、A¹は、



であり、RはHまたはC₁-C₄アルキルまたはヒドロキシアルキルであり、R¹はC₂-C₁₂アルキレン、ヒドロキシアルキレン、アルケニレン、アリーレンまたはアルカリーレン、または2～約20オキシアルキレン単位を有するC₂-C₃オキシアルキレン部分（ただしO-N結合は形成されていない）であり；各R²はC₁-C₄アルキルまたはヒドロキシアルキル、部分-L-Xであるか、あるいは2つのR²は一緒になって部分-(CH₂)_r-A²-(CH₂)_s-を形成し、ここでA²は-O-または-CH₂-であり、rは1または2であり、sは1または

2であり、そして $r+s$ は3または4であり；各 R^3 は C_1-C_8 アルキルまたはヒドロキシアルキル、ベンジル、部分 $L-X$ であるか、あるいは2つの R^3 または1つの R^2 および1つの R^3 は一緒になって部分 $-(CH_2)_r-A^2-(CH_2)_s-$ を形成し； R^4 はp置換部位を有する置換 C_3-C_{12} アルキル、ヒドロキシアルキル、アルケニル、アリールまたはアルカリール基であり； R^5 は C_1-C_{12} アルケニル、ヒドロキシアルキレン、アルケニレン、アリーレンまたはアルカリーレン、または2～約20オキシアルキレン単位を有する C_2-C_3 オキシアルキレン部分（ただしO-O結合またはO-N結合は形成されていない）であり；XはH、 C_1-C_4 アルキルまたはヒドロキシアルキルエステルまたはエーテル基、およびそれらの組合せから成る群より選択される非イオン性基であり；そしてLはポリオキシアルキレン部分 $-(R^6O)_m-(CH_2CH_2O)_n-$ を含有する親水性鎖であり；ここで R^6 は C_3-C_4 アルキレンまたはヒドロキシアルキレンであり、そしてmおよびnは部分 $-(CH_2CH_2O)_n-$ が前記ポリオキシアルキレン部分の少なくとも約50重量%を構成するような数であり；dは M^2 が N^+ であるとき1であり、そして M^2 が N であるとき0である；nは前記カチオン性ジアミンについて少なくとも約6であり、そして前記カチオン性ポリアミンおよびカチオン性ポリマーについて少なくとも3であり；pは3～8であり；qは1または0であり；tは1または0であり；tは1または0であり、ただしqが1であるとき、tは1である]

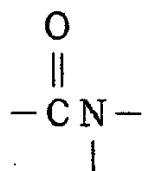
からなる群から選択されることを特徴とする、液体水性組成物。

2. 前記過酸素漂白剤が、過酸化水素またはその水溶性源であり、好ましくは前記水溶性源が、過炭酸塩、過ケイ酸塩、過硫酸塩、過ホウ酸塩、ペルオキシ酸、ヒドロペルオキシド、ジアシルペルオキシドおよびそれらの混合物から成る群より選択され、より好ましくは過酸化水素、t-ブチルヒドロペルオキシド、クミルヒドロペルオキシド、2, 4, 4-トリメチルペンチル-2-ヒドロペルオキシド、ジ-イソプロピルベンゼンモノヒドロペルオキシド、t-アミルヒドロペルオキシド、2, 5-ジメチル-ヘキサン-2, 5-ジヒドロペルオキシド、ジラウロイルペルオキシド、ジデカノイルペルオキシド、ジミリストイルペルオキシド、またはそれらの混合物である、請求項1に記載の組成物。

3. 合計の組成物の0.01～1.5重量%、好ましくは0.1～1.2重量%、より好ましくは0.5～1.0重量%、最も好ましくは2～8重量%の前記過酸素漂白剤、またはそれらの混合物を含む、前記請求項のいずれか一項に記載の組成物。

4. 前記汚れ懸濁剤がエトキシル化カチオン性ジアミンであり、R¹がC₂～C₆アルキレン、好ましくはヘキサメチレンである、請求項1～3のいずれか一項に記載の組成物。

5. 前記汚れ懸濁剤がエトキシル化カチオン性ポリアミンであり、R⁴が置換C₃～C₆アルキル、ヒドロキシアルキルまたはアリール基であり；A¹が



であり、そしてpが3～6である、

請求項1～3のいずれか一項に記載の組成物。

6. 前記汚れ懸濁剤がエトキシル化カチオン性アミンポリマーであり、前記エトキシル化カチオン性アミンポリマーはポリウレタン、ポリエステル、ポリエーテル、ポリアミド、ポリイミド、ポリアクリレート、ポリアクリルアミド、ポリビニルエーテル、ポリアルキレン、ポリスチレン、ポリアルキルアリーレン、ポリアルキレンアミン、ポリアルキレンイミン、ポリビニルアミン、ポリアルキルアミン、ポリジアリルアミン、ポリビニルピリジン、ポリアミノトリアゾール、ポリビニルアルコール、アミノポリウレイレン、およびそれらの混合物から成る群より選択される主鎖を有する、請求項1～3のいずれか一項に記載の組成物。

7. 合計の組成物の0.01～1.0重量%、好ましくは0.05～5重量%、より好ましくは0.1～4重量%、最も好ましくは0.2～2重量%の前記汚れ懸濁剤、またはそれらの混合物を含む、前記請求項のいずれか一項に記載の組成物。

8. 漂白活性化剤を、好ましくは合計の組成物の0.01～2.0重量%、よ

り好ましくは1～10重量%、最も好ましくは2～7重量%のレベルで、さらに含む、前記請求項のいずれか一項に記載の組成物。

9. 前記漂白活性化剤が、アセチルトリエチルクエン酸塩、テトラアセチルエチレンジアミン、3，5，5-トリメチルヘキサノイルオキシベンゼンスルホン酸ナトリウム、ジペルオキシドデカン酸、ペルオキシアジピン酸のノニルアミド、n-ノナノイルオキシベンゼンスルホン酸塩、N-アシルカプロラクタム、置換および非置換のベンゾイルカプロラクタム、オクタノイルカプロラクタム、ノナノイルカプロラクタム、ヘキサノイルカプロラクタム、デカノイルカプロラクタム、ウンデカノイルカプロラクタム、ホルミルカプロラクタム、アセチルカプロラクタム、プロパノイルカプロラクタム、ブタノイルカプロラクタム、ペンタノイルカプロラクタム、およびそれらの混合物から成る群より選択され、好ましくはアセチルトリエチルクエン酸塩である、請求項8に記載の組成物。

10. 5以下、より好ましくは1～4.5、最も好ましくは2～4.5のpHを有する、前記請求項のいずれか一項に記載の組成物。

11. 界面活性剤、安定剤、キレート化剤、ラジカルスキャベンジャー、ビルダー、汚れ懸濁剤、染料転移剤、溶剤、増白剤、香料、発泡抑制剤、色素およびそれらの混合物から成る群より選択される少なくとも1つの任意の成分をさらに含む、前記請求項のいずれか一項に記載の組成物。

12. エマルジョンまたはマイクロエマルジョンの形態である、前記請求項のいずれか一項に記載の組成物。

13. 汚れた布帛を洗濯する前に、前記請求項のいずれか一項に記載の液状酸性水性組成物をその純粋な形態で前記布帛の少なくとも一部分上に適用する工程からなる、汚れた布帛を前記組成物で漂白する方法。

14. 前記組成物を前記布帛と接触させて1分～1時間、好ましくは1分～30分、より好ましくは2分～10分間維持した後、前記布帛を洗濯する、請求項13に記載の方法。